

平成30年度

# 町政執行方針

新年度がスタートしました。

平成30年妹背牛町議会第1回定例会において、田中町長が新年度の予算を決定するとともに、今年のまちづくりの方針である「町政執行方針」を表明しました。今月はこの方針などについて、皆さまにお伝えします。



## 基本姿勢

**本年は、かつての「蝦夷地」から松浦武四郎が名付け親とされる「北海道」へと命名されて以来、150年目の節目を迎える年であります。北海道そして妹背牛町を築いてこられた数多くの先人たちに、深い感謝の気持ちで溢れて参ります。**

さて、昨年12月3日の町長就任以来3か月余りが経過しました。この間、掲げ

た選挙公約の再検証とその方向性の検討をはじめ、継続、あるいは新規事業の実施を図るべく平成30年度予算の編成作業に取り組みながら、1月末からの町政懇談会で全町を巡り町民の声を聞いてまいりました。

国は平成30年度予算を「経済・財政再生計画」の集中改革期間の最終年度と位置づけ、一般会計予算総額を、6年連続で過去最大を更新する97兆7千100億円としました。

**本**町の平成30年度予算におきましては、2年連続となる財政調整基金からの繰り入れによる編成を余儀なくされ、大変厳しい財政運営となります。多様な行政需要には、公的な支援ではどうしても追いつかない社会生活の隙間を埋めるために、町民の自主的な参加を求めていかなければなりません。そこに腐心した政策の立案・実行が求められてくると認識しているところです。

また、基幹産業である米

づくりは、高品質米生産の維持・向上によって、高い評価を得る中で、例えば「ふるさと納税寄附金」は年々増加しているところです。

しかし「米の直接支払交付金の廃止」など、米作農業を取りまく情勢は大変厳しく、さらには、「TPP11」「日欧EPA」が今後の農産物の生産減少にどう影響してくるのか懸念をしているところでもあります。

**商**工業においては、国が言うところの国内経済の好循環や所得環境の大幅な改善とは裏腹に、長引く地方経済の低迷、個人消費の停滞・流出など非常に厳しい状況は続くものとみられます。国の平成30年度予算の重点項目になっている中小・小規模事業者生産向上のための支援策を加速的に進めていただき、景気回復の波を全国に広げていただきたいと思います。平成30年度は私の舵取り役としての町政元年と位置付け、スタートから徐々に加速して行く大切な年と考えております。「町民が



町長 田中 一典

## 重要施策

活力と賑わいあふれる産業のまちづくり

### 農業振興について

「主権者」である基本理念に加えて、地域住民の主体性や自主性を尊重した「協働」によるまちづくりを「あきらめない地域づくり、妹背牛わっしょい！」の掛け声とともに進めてまいります。町議会議員の皆さん並びに町民の皆さんとともに着実な歩みを進めていくため、どうか一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は育苗等の春作業は順調に行われましたが、田植え後6月以降の低温・日照不足により、分けつ発生が緩慢となる等、初期生育が不良となりました。一転して7月は高温・多照で推移し生育が大きく回復するまでに至り、収穫作業は遅れたもの、収量・品質と

もに良好となり、北空知地域における米の作況指数が103、本町の単収は563キロと、7年連続の豊作になりました。

本年も、農家の高い技術力により8年連続の豊作になることを期待するところです。農政全般を振り返りますと、生産調整が3年連続で達成され、米の需給環境はさらに引き締まり、米価は上昇したものの、本年から廃止される米の配分や直接支払交付金の影響が心配されるところであり、この価格上昇が本年以降も継続することを願うところでもあります。

一方、米国を除いた「TPP11」及び「日欧EPA」は、来年の協定発指を目標としており、特に「TPP11」における米国の動向に注視が必要です。北海道で発表した影響試算が基幹産業である本町農業にどのような影響をもたらすのを見極め、国により慎重な対応を求めるとともに万全なセーフティネットの構築や将来の担い手・若手農業者

が希望の持てる農業政策を早急に実施するよう関係機関と連携を図り、強く要請して参ります。

これら農政動向を考慮しつつ、本町におきましては国営農地再編整備事業等による生産基盤の強化、RTK・GPS普及リース事業等IT農業の推進、米穀乾燥調製貯蔵施設機能増強事業による米主産地の確立、園芸ハウス導入支援事業等複合経営の推進による経営の安定化を中心として、次の柱により農業施策を展開してまいります。

### 生産基盤の強化について

昨年、国営農地再編整備事業は、一定の予算が確保され、面的整備が全て完了し、事業進捗率は95・2%まで進みました。本年は、客土、道路改良、二次整備を実施し、全工事が完成する予定となり、平成31年度の換地処分をもって事業が完了する見込みであります。

一方、道営農地整備事業による「妹背牛東地区」、「桜川第2地区」、「千秋第2地

区」及び「大鳳永宮地区用水路」については要求額より減額される見込みで、予定されている工事の遅延が懸念されますが、今後とも早期完成に向けて安定的な予算の確保が出来るよう、関係省庁に強く要請し、より効率的で生産性の高い農業の展開を目指し、土地盤整備の強化に努めてまいります。

### IT農業の推進・普及について

平成27年4月に設立された「妹背牛町GNSS研究会」は、順調に会員数を増やし、現在64人が在籍しております。昨年から実施しておりますRTK・GPS普及リース事業については、33件の希望があり、当初想定していた事業費をオーバーしているところがあります。今年においても事業を実施し対応してまいりたいと思えます。また、均平システム貸出事業の実績は順調に拡大しているところであり、さらに普及できるように努めてまいります。

IT農業は、「日本版GPSみちびき」の運用開始に伴い、ロボット技術等が飛躍的に進んでいくものと考えますが、今後とも研究会を通じ研鑽を重ね、IT農業の推進・普及による省力化や生産性の向上を目指してまいります。

### 良質・良食味米の安定生産と米主産地の確立について

国は、本年産から米の配分を廃止し情報のみ提供する状況となりましたが、北海道再生協議会では、オー路北海道で取り組むものとし、各市町村への「生産の目安」を示しており、本町は昨年より2%増となる2,230.7haが示されております。町地域農業再生協議会では、既に各農家へ目安を通知し、取りまとめを実施しているところです。また、産地交付金は、本年から交付要件等が見直される予定で、現段階では内容が未定であり、今後は各農家へ迅速な情報提供に努め、的確な制度活用

努めてまいります。

国の米の配分が廃止されることに伴い、今後は特に産地間競争が激しくなることが予想されます。平成15年に建設されました米穀乾燥調製貯蔵施設は、機械設備の老朽化により集荷作業の遅延や品質の低下が懸念されており、国費事業を活用し、色彩選別機及び糊摺機を追加導入する等、処理能力の強化を図り、競争力を高めて参ります。また、ふるさと納税の返礼品や温泉のお土産等に用いている「プレミアム北彩香」。「寒熟米北彩香」のブランドを更に広げていくとともに、収量及び良質・良食味米の安定生産を継続し、主食用米の生産地としての地位向上に努めてまいります。

### 活力ある農村づくり及び担い手の育成について

昨年、商工会及び役場、地域おこし協力隊が連携し商品化したハーブリキュールは、町内各販売店や飲食店、ふるさと納税の返礼品として取扱われ、徐々に広

まりが出てきましたが、米以外の特産品は少なく本町をPRするには不足していると感じられます。一つのアイテムとして酒造好適米による拘った日本酒づくりを進めていきたいと考えており、本年その準備に取り掛かりたいと思います。

また、その他の特産品づくりや農協・商工青年部が連携し開催している冬のイベント等に関し、町民皆様のご意見をいただき活力ある農村づくり・地域づくりを目指してまいります。

農業の担い手の育成・確保については、園芸ハウス導入支援事業を実施し、複合経営による安定化を目指す一方、新規就農者の呼び水としての効果も期待し、北海道農業担い手育成センターによる募集とともに展開いたします。また、北空知農業後継者対策育成支援協議会による研修や事業等、関係機関との連携を図り、将来の地域農業の担い手を確保するよう努めてまいります。



新春恒例の大抽選会



大勢の人で賑わう収穫感謝祭



コープさっぽろ会員の田植体験

## 商工業の振興について

**本**町の商工業については、地方経済の低迷、個人消費の停滞など厳しい状況が続いており、地域内消費の向上対策が重要であります。商店等の安定経営のための支援対策に各種資金融資利用に係る保証料の補給支援、小売店舗等設備支援事業を継続してまいります。

また、少子高齢化が進む本町において「妹背牛町が生活しやすい環境づくり」を推進していく中、移住定住支援事業、子育て支援事業などの商工会商品券での支援事業を継続し商店の活性化を図るとともに、町内企業等に勤めながら町外に居住されている方々に移住を考えていただくため、公営住宅の建設、町有地の宅地分譲など人口減少を踏まえた事業を実施いたします。

さらに、商工会事業の住宅等環境整備支援事業、買い物おもてなしタクシー助成事業、モスビーカードのポイント贈呈支援を継続し、今後も商工会の各部会が連

携し、更なる商店街機能の強化が必要であり、町の活性化に結びつく事業に対し積極的に支援をしてまいりたいと考えております。

## 観光の振興について

**誘**客施設であります妹背牛温泉ペルは、一昨年、温泉療養効果実証調査事業を終了しました。今後は、源泉かけ流しの飲用温泉水は泉質を医学的見地から、「老化や病気の要因である活性酸素を除去する能力にも優れている温泉」の療養効果をセールスポイントに営業活動の強化に努め、安定した経営を目指してまいります。

カーリングホールにつきましては、冬季オリンピック及びパラリンピックの種目であることから、大会開催及び町内外の学校関係の授業などで利用が増えています。また、修学旅行生の体験学習、ふるさと納税による宿泊・スポーツ体験満足コース等を提供し、「カーリングのまち妹背

牛」をブランドに、全国的なPRを展開し、夏は遊水公園うらら、パークゴルフでの交流人口の増加を図ってまいりたいと考えております。

## 安心して暮らせる福祉と健康のまちづくり

高齢者福祉、介護サービスの充実について

**本**町の高齢者人口は年々増加し、今後も更に加速すると見込まれ、一人暮らしや高齢者世帯、さらには認知症高齢者の増加が懸念されます。高齢者のニーズや生活実態に基づきながら、各種の福祉・介護サービスを提供し、要介護状態への防止策を講じてまいります。本年度も引き続き、「わかち愛もせうしひろば」を利用した介護予防・総合事業の実施や情報提供など地域の包括的なケアシステムの構築に向けて、生活の場である地域社会での福祉サービスの充実を図ってまいります。また、在宅福祉の向上を目指して、高齢者世帯等を対象とする水道料金及

び灯油等の暖房用燃料費の一部助成を継続してまいります。

## 児童福祉、子育て支援の充実について

**少**子化や核家族化が進む中、子育て世代を地域で支える仕組みを整備することが急務となっております。本町においては平成30年度より、母子保健や育児に関する様々な悩み等にきめ細やかに対応するため、子育て世代包括支援センター（保健センター、保育所内）を設置し、子育てに関わる関係者が連携を図りながら、妊娠期から子育て期に渡るまで、切れ目のない包括的な支援を提供するための体制づくりを整備します。

子育て世代の経済的負担の軽減策として、水道料金の一部助成や高校生までの医療費無料化、任意予防接種の助成、妊婦健診費用の一部助成、特定・一般不妊治療にかかる費用の一部助成等については継続し、新たに産婦健診費用の助成を



様々な大会が開催されたカーリングホール



愛好者で賑わうパークゴルフ場



子ども達で賑わう遊水公園うらら

開始いたします。また、認定こども園妹背牛保育所における保育サービス、学童保育、一時保育や在宅児親子対策「遊びの教室」の開催、保健センターにおける、親子の遊び場開放事業、子育て自主サークルへの支援等、安心して子育てができる環境の整備や支援にも努めてまいります。

### 健康づくり・医療の充実について

**各**種疾病の発症や重症化予防対策としましては、健康・医療情報等のデータを活用し、効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るために策定した「第2期妹背牛町国民健康保険データヘルス計画」（平成30年度から平成35年度までの6年間を計画期間）に基づき、「青年期の肥満予防」「糖尿病の重症化予防」「壮年期のがんによる早世予防」を重点対策に掲げ、各種健診や健康教室をはじめとした保健事業の充実を図ってまいります。

また、健康増進計画改訂

版（平成28年度から平成35年度までの8年間を計画期間）に基づき、住み慣れた町でいきいきと暮らしていけるよう、食生活、運動、禁煙、こころの健康づくり等の分野ごとに目標を設定し対策に取り組んでまいります。妹背牛診療所については医療法人と連携し、医療水準の維持・向上に配慮しながら健全運営に取り組んでまいります。

### 地域福祉、心身障がい者福祉の充実について

**社**会情勢や町民の価値観・生活意識の変化に伴い、福祉に対するニーズが多様化する中、地域福祉の中核を担う社会福祉協議会をはじめ、NPO法人、民生委員、町内会など関係機関と連携のもと、全町民が生き生きと暮らせるまちづくりを目指します。

また、障がい者差別解消法の施行と、昨年、多機能型事業所アグリオン妹背牛が開設されたことにより、障がいへの理解と啓発に取り組む、障がい者の方が安

心して暮らせるまちづくりを目指すとともに、地域社会で自立した生活が営めるよう、各種福祉サービスの適切な提供と社会参加に努めてまいります。

### 国民健康保険事業について

**国**民健康保険は、国民皆保険制度の中核を担い、地域医療の確保と地域住民の健康の保持増進に大きく貢献してきました。

しかしながら、急速な少子高齢化の進展や疾病構造の変化などに伴う医療費の増加に加え、社会経済の低迷などにより低所得者の加入が多い国民健康保険財政は極めて厳しい状況となっています。

このような中、国民健康保険の財政基盤強化のため、平成30年度に運営主体を市町村から都道府県に移すことを柱とした国民健康保険の都道府県単位化がスタートし、国民健康保険を取り巻く状況は、大きく変革されますが、健全かつ安定的な運営を確保する必要があります。

があり、その役割を十分に果たしていけるよう、全力で取り組んでまいります。また、4月からは保険料の賦課限度額及び軽減判定所得の引き上げなども予定しております。なお、平成30年度の国民健康保険料率については、所得や医療費などの確定後に改めてご提案したいと考えております。

### 介護保険事業について

**介**護保険制度は、介護が必要になっても、できる限り自立した日常生活を送ることができるよう、社会全体で支えていく仕組みとして誕生し、医療保険制度、公的年金制度等と並び、日本の社会保障制度の一翼を担っております。全国的に高齢化が進む中、本町の高齢者数はピークを迎え、介護サービスの利用も年々増加し、本町においても介護保険が果たす役割は大きくなっております。

こうした中で、平成30年度から3年を計画期間とした第7次介護保険事業計画



中学生が乳幼児とふれ合った「いのちの授業」



3周年を迎えたわかち愛もせうひろば



新入学児童へ傘のプレゼント

がスタートいたしますが、認定者の重度化や介護サービスの多様化から介護費用の増加が見込まれ、介護保険の値上げを予定しているところと見えます。増え続ける介護費用を抑え、住み慣れた妹背牛町でいつまでも健康的で自立した生活を送ることができるよう、高齢者の介護予防、生きがいづくりの推進を図ると同時に、活躍の場を創出できるように、新たな生活支援サービスの展開、みんなで支え合う地域づくりの実現を目指します。また、認知症高齢者と介護者を支援する体制の整備や、介護支援ボランティアの普及、医療機関や介護事業所等との広域的な連携体制の構築等、自立支援、重度化防止の取り組みをより一層推進してまいります。



## 安全で生活しやすい快適なまちづくりについて

### 環境衛生について

本町では、資源リサイクルによる資源循環型社会の構築を推進し、ごみの分別・資源化に取り組みます。家庭から排出されたごみはすべて北空知衛生センター組合に搬入して処理し、生ごみはバイオガス化施設で処理され、不燃ごみ・粗大ごみは、解体・選別し、破碎処理後の残渣と生ごみ残渣は、北空知衛生施設組合の最終処分場へ搬入しております。また燃えるごみは、「中・北空知廃棄物処理広域連合」で、焼却処理されており、資源ゴミは、処理業者に売却したうえでリサイクルが行われており、限りある資源の有効活用を図るだけでなく、資源ごみ売却収入は本町の財源になっているところがあります。

環境衛生につきましても、スズメバチ等の巣の駆除助成事業を本年度も継続し、被害を未然に防止します。

また、地区住民のエキノコックス症健康診査や食中毒予防の徹底、パソコン回収の実施による不法投棄の防止、春の清掃の無料ごみ回収等により、環境美化運動の推進に努めてまいります。

### 上下水道等の充実について

昭和60年に供用開始した簡易水道事業は、平成30年1月末現在1,251戸が加入していますが、人口減により加入者、使用量の減少に伴い、料金収入が減るなど経営に影響を与えています。また平成28年度より、3カ年計画で電気計装機器の更新を実施し、経営の効率化を図り、安全・安心な生活水の安定供給と経営基盤の安定に努めてまいります。

農業集落排水事業は、平成30年1月末現在1,072戸が加入していますが、簡易水道事業同様、人口減による使用量の減少に伴い料金収入が年々減少し、一般会計からの繰入金に依存

しているため、平成28年度より農業集落排水使用料を10%値上げし、一般会計からの繰入金の抑制に努めています。また、処理施設については平成6年に供用開始し、24年が経過しているため、適正な維持管理が行われていますが、経年劣化などにより処理機能等に障害がでてくる状況の中で、機能強化を目標として、平成27年度から5ヶ年計画で機器の更新を実施しています。今後も施設の適正な維持管理に努め、機器更新時期の延命に努めてまいります。また、個別排水処理施設については、今後も農業用水域の保全に努め、健全な事業運営を行ってまいります。

### 住宅施策について

現在管理しております町営住宅は、公営住宅180戸、特定公共賃貸住宅4戸、単身勤労者住宅8戸、勤労者住宅7戸の計199戸であります。

平成28年度に策定しまし



女性に人気だったごほうび講座



盛り上がった福祉レク大会



特定検診で疾病予防と早期発見



等に限られています。この防災情報伝達手段の整備で有効な手段として現在考えているのは、J・アラートと連動した、防災行政無線（同報系）戸別受信機の設置や、屋外スピーカーの設置であります。最適な情報伝達手段を検討し、平成31年度の整備に向け、起債・補助金等の活用を模索しながら鋭意準備しているところであります。

### 交通安全・防犯活動の充実について

昨年1年間の全国の交通事故死者数は前年より210人少ない3,694人となり、統計が残る昭和23年以降で最少となったところでもあります。全体の死者数のうち65歳以上の高齢者は2,020人で、前年より118人減少しましたが、全体の54・7%と依然として高水準で推移しているところでもあります。

本町の交通事故死ゼロの継続については、平成28年11月12日に「3,000日」を達成しているところで

が、次の目標としては来年8月9日に達成予定の「4,000日」に向けて、今後も町民総ぐるみの運動と願いに、記録達成を過剰に意識することなく、一日一日を着実に積み重ねていきたいと考えております。

防犯活動につきましては、昨年の全国地域安全運動の中で、「子供と女性の犯罪被害防止」「特殊詐欺の被害防止」を全国重点目標として、不審者情報や特殊詐欺などに関する早期通報の呼び掛けや積極的な情報発信、警察や学校などの連携強化、危険箇所の点検等を掲げておりました。

特に高齢者が狙われることが多い振り込め詐欺などを含む特殊詐欺の被害は全国的に激増する中、妹背牛町でも昨年の12月に架空請求ハガキが届き、被害が発生してしまいました。役場からの消費生活情報や妹背牛駐在所の速報等を町内回覧で町民の皆様へ周知し、更なる被害を防ぐべく、注意喚起を図ったところであります。

今後も、警察からの情報を基に妹背牛駐在所と連携を密にしながら、さらに防犯協会や民生児童委員、町内会などとの連携も強化し、犯罪や事故のない「安全安心なまちづくり」に努めてまいります。

### 道路、雪対策、公共交通の充実について

町道の整備につきましては、修繕計画に沿って切削オーバレイ工法による舗装修繕を行い、今後も適正な管理と維持補修に努めてまいります。

橋梁につきましては、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、予防的な修繕を図り、適正な管理を進めてまいります。冬期間の除排雪対策については、社会資本整備総合交付金事業を活用し、除雪機械の計画的な更新に取り組み、生活道路の安全確保や救急車両の通行確保に努め、効率的な除排雪が実施されるよう業務を遂行してまいります。

### 協働による自主・自立のまちづくり

人口減少が進む本町において、子育て世代が生みやすく、育てやすいまちづくり、魅力的なまちづくりを目指して積極的に施策を展開しています。今後も「妹背牛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、移住定住支援事業・子育て支援事業など施策を継続するほか、医療・福祉・教育など多岐にわたる分野において、地域の元気づくりに向けた諸施策を着実に積み重ね、「人輝き、笑顔あふれるまち・もせうし」、「みんなので支え合う福祉と協働のまちづくり」「小さなまちだからこそ出来るまちづくり」を目指し、町民と共に関心を持って、まちの活力を見出すため努めてまいります。なお、町政懇談会でもいただきましたご意見に対しましては、随時、お答えできるタイミングで回答し、政策の中に反映させて行く所存であります。



スノフェス in モセウシ



火防査察で火災予防を呼びかけ



交通安全祈願